令和元年度福井県立道守高等学校　通信制　学校関係者評価書

（問）
・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた改善策・向上策が適切かどうか。
・その他。

（ご意見をお聴きした方々）

・福井県立道守高等学校教育振興会	会長	鈴木　宏治　氏
・福井県高等学校定通教育振興会連合会	顧問（元校長）	尾崎　剛敏　氏
・福井県立道守高等学校同窓会	会長	平山　吉男　氏
・福井県立道守高等学校育友会	会長	廣部　賀紀　氏
・福井県立道守高等学校福信会	会長	多田　博之　氏

（ご意見欄）

〇学習指導
・多様な生徒を抱える本校にとって単位修得への説明対応は重要な課題である。継続的な指導をお願いします。
・きめ細かい学習指導のおかげで、成果指数が上がっている。
・理解していない１０％の数字に継続的なサポートをお願いします。

〇生活指導（特別活動指導）
・「安心して学校生活を送れる」の基本となる、先生方とのコミュニケーションを充実させるための環境整備が大切である。
・部活動が再開したことはよいことである。全国大会で活躍することを希望します。
・部活動に、ｅスポーツなど導入も必要かもしれない。

〇進路指導
・適切だと思います。
・卒業生や同じ境遇を体験した社会人との対話は重要である。「共感」が自己変革につながると思う。
・就職には特に時間と手間をかけて、ボランティア活動なども含めた無理のない就労や、卒業後も社会と関わりを持っていけるよう気配りしてほしい。

〇渉外・広報・放送・図書指導
・「通信道守」は情報発信源として定着していると思う。
・生徒たちが、活字離れをしているの深刻な問題である。タウン誌や雑誌など生徒の興味・関心のあるものを取り入れることも一つではないか。
・生徒たちの活字離れを少しでもなくすために、電子書籍や情報端末などＩＴ関係を利用することも考慮する必要があるのでは。

〇保健指導
・健康診断の受診率が高くなってその後のケア（通院）を確認することが必要ではないか。
・自分の健康状態を把握することの効用を、具体的に伝える対策を考える。
・清掃や美化ボランティアに参加する生徒の増加はよいことである。習慣になれば家庭でも行うと思う。

〇教育相談
・適切だと思います。
・定期的な事例検討会は、生徒支援を具体的に考える場として成果を上げているが、同時に、先生方一人一人の実践や取り組みが共感を生み、学校全体としての士気が上がっている。
・不登校や引きこもりの生徒も今後増えていくと予想される。家族の不安も非常に大きいので、今後も家族との連携を深めてほしい。

〇全体(総括)
・通信制という限られた環境の中でも、生徒一人一人の状況把握が求められている。年毎に多様化していく生徒に対応するための体制強化が必要である。
・先生方のオーバーワークにならないように、よろしくお願いします。

〇学校関係者評価を踏まえた今後について
・学校の取組みに対して、十分な評価をいただいた。今回、学校関係者評価委員の方からのご意見やご指摘を真摯に受けとめ、次年度に向けた目標設定（スクールプラン）に生かし、生徒たちがより良い学校生活が送れるよう取り組んでいきたい。
・今後とも、生徒たちの夢をかなえることができるよう、全教職員が一丸となり、一人ひとりの個に応じたきめ細やかな教育を推進していきたい。